

育成を目指す資質・能力

B4（表現・制作）

蕪崎市のよさや特色について理解し、地域の中でできることを考え、自らの生活や行動に生かす。

ICT活用のポイント 【活用したソフトや機能】 学習支援ソフト

学習支援ソフト（ロイロノート）を活用することで、学んだことをスライドに作成したり、写真や動画に文字や音声を入力したりして説明できる。

学習の流れ

蕪崎市のよさや特色について考え、自分の課題を設定する。

課題に沿って、資料・体験学習・GT講話などをもとに、情報の収集を行う。

収集した情報について、自分の課題を解決するために必要な情報を選択・整理する。

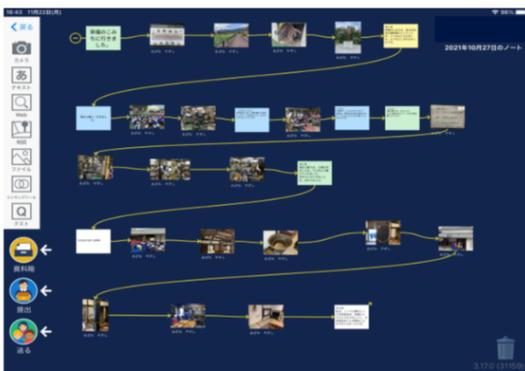
発表を通して、地域の中で自分たちにできることを考える。

事例の概要

本単元では、自分が住んでいる地域のことを知り、探究的な学習を行うことで、蕪崎市のよさや特色について考える活動を行っていく。また、調べて分かったことをもとに、地域の中で、自分たちにできることは何かを考え、自らの生活や行動に生かしていくことを目的としている。

さらに、社会科の学習で行う校区探検や校外学習、講師を招いての講話などとも関わりをもたせ、教科横断的に学習を進めることができるようにしていく。社会科でも、自分たちの地域にあるものや地形、産業、農業などについて学習することから、教科の枠組をこえて、探究課題の解決に向けて学習を深められるようにしていきたい。

【事例におけるICT活用の場面】



ICT活用のポイント

今回の実践では、児童が調べてわかったことや思ったことなどをカードに整理し、発表をするための資料を作成した。カード作成にあたっては、テキストや写真、動画をもとに、それらに文字や音声を入れていった。写真や動画は、校外学習などの際に教師が撮影したものを資料箱に入れておき、その中から児童が必要なものを選び使用した。児童が自分で記録したメモ用紙や、使いたい本などは、児童自身が写真を撮って使用した。

小学校3年生では、まだローマ字入力に苦手意識がある児童も見られた。文字入力だけでなく、手書き入力や音声入力も活用することで、小学校3年生でも主体的にカードを作成することができた。また、提出機能を活用することで、教師が、児童が作成したものを見ることができ、児童同士で、友達が作成したものを見ることができ、学びを共有することができた。

今回の実践を通して、調べたことをまとめる際に、写真や動画を活用することで、児童が伝えたいことをわかりやすく表現できるのではないかと感じた。3年生という発達段階であっても、文字入力だけでなく、手書き入力や音声入力を効果的に活用したり、伝わりやすい順番にカードを作成したりすることで、多くの児童が主体的に学習を進めることができた。

ICT活用事例 B4（表現・制作）

小学校3年・総合的な学習の時間 「調べよう 蕪崎市 伝えよう 私たちのまち」

使用機器：1人1台端末、電子黒板

使用アプリ：学習支援ソフト

〈ICT活用のポイント〉

- ①校外学習等で撮影した写真や動画を共有することで、学習を振り返ったり、深めたりすることができる。
- ②学習支援ソフト（ロイロノート）を活用することで、発達段階に応じて、学んだことをスライドに作成したり、写真や動画に文字や音声を入力して説明したりするこ

1 単元の目標

地域の人やもの、ことに関わる人を通して、蕪崎市のよさや特色について理解し、地域の中で自分たちにできることは何かを考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地域には人、もの、ことに関わるすばらしさがたくさんあることを理解している。	④対象との体験的な関わりを通して課題に気付いている。	⑧自分の良さに気付き、探究活動に進んで取り組もうとしている。
②情報を適切に調べ、まとめる技能を身に付けている。	⑤さまざまな情報の収集の仕方を知り、見通しをもって情報を集めている。	⑨互いの良さに気付き、課題解決に向けて行動しようとしている。
③資料、観察の結果から考察し、新たな知識を得ている。	⑥収集した情報を比較・分類等して、整理・分析している。	⑩自分にできることに気付いている。
	⑦相手意識、目的意識をもってまとめ、表現している。	

3 単元について

本単元では、自分が住んでいる地域のことを知り、探究的な学習を行うことで、蕪崎市のよさや特色について考える活動を行っていく。また、調べて分かったことをもとに、地域の中で、自分たちにできることは何かを考え、自らの生活や行動に生かしていくことを目的としている。

社会科の学習で行う校区探検や校外学習、講師を招いての講話などとも関わりをもたせ、教科横断的に学習を進めることができるようにしていく。社会科でも、自分たちの地域にあるものや地形、産業、農業などについて学習することから、教科の枠組をこえて、探究課題の解決に向けて学習を深められるようにしていきたい。

4 指導と評価の計画（70時間）

時間	学習内容	知	思	態	評価方法
1 ～ 3	1 蕪崎市はどんなところなのか考える。 ・知っていることを挙げてみる。 ・家の人や地域の人に、蕪崎市のことを聞いてみる。	○		○	・発言 ・ワークシート
4 ～ 8	2 自分の課題を決め、計画を立てる。 ・興味をもったことを書き出し、自分の課題を決める。 ・自分の課題に合った調べ方や、解決に必要なことを考える。		○	◎	・発言 ・ワークシート
9 ～ 30	3 蕪崎市について調べる。 ・副読本、パンフレット、インターネット、校外学習、講話などで調べ学習を行う。	◎		○	・ワークシート
30 ～ 40	4 まとめたことを発表する。 ・調べてわかったことを整理し、発表する。		◎		・発言 ・ワークシート (学習支援ソフト)
41 ～ 60	5 再整理 ・さらに、知りたいことについて調べ学習をする。 ・新たにわかったことや学びが深まったことを整理し、発表する。	◎	◎	○	・ワークシート (学習支援ソフト)
60 ～ 70	6 地域の中で自分たちにできることを考える。 ・自分たちにできることは何かを考えて、やってみる。			○	・発言 ・ワークシート

5 ICTの効果的な活用について

ロイノートは、テキストや写真、動画をカードとして作成し、そのカードを線でつなげることで、伝わりやすい順番に並べることができる。また、提出されたカードを使って発表したり、友だちのカードを見比べたりすることで、学び合いもできるソフトである。

今回の実践では、児童が調べてわかったことや思ったことなどをカードに整理し、発表をするための資料を作成した。カード作成にあたっては、テキストや写真、動画をもとに、それらに文字や音声を入れていった。写真や動画は、校外学習などの際に教師が撮影したものを資料箱に入れておき、その中から児童が必要なものを選び使用した。児童が自分で記録したメモ用紙や、使いたい本などは、児童自身が写真を撮って使用した。

児童の発達段階に応じて、文字入力にこだわらず、音声入力や手書き入力など、様々な手法を取り入れることで活用の幅は広がる。小学校3年生という発達段階においては、国語科でローマ字を学習し、少しずつローマ字入力ができるようになってきているが、まだ、ローマ字入力に苦手意識がある児童も見られた。文字入力だけでなく、手書き入力や音声入力も活用することで、小学校3年生でも主体的にカードを作成することができた。

また、提出機能を活用し、完成したものを提出させた。そうすることで、教師が、児童が作成したものを見ることができるようだけでなく、児童同士で、友だちが作成したのを見ることができ、学びを共有することにつながることができた。

今回の実践を通して、調べたことをまとめる際に、写真や動画を活用することで、児童が伝えたいことをわかりやすく表現できるのではないかと感じた。小学校3年生という発達段階であっても、文字入力だけでなく、手書き入力や音声入力を効果的に活用したり、伝わりやすい順番にカードを作成したりすることで、多くの児童が主体的に学習を進めることができた。

